



**オーシャニアクルーズの新生オーシャニア オーレリアが
2028 年と 2029 年に 180 日間世界一周クルーズ**

オーシャニア オーレリア就航シーズンの全クルーズ販売開始



東京 5 月 21 日 - [オーシャニアクルーズ](#)が 2027 年 11 月以降に実施の新生 オーシャニア オーレリア就航記念クルーズを発表。2028 年と 2029 年に 2 年連続で催行の 180 日間世界一周クルーズと、70 泊以上の日程で 2 度催行のグランドボヤージュも含まれます。

各クルーズ日程は現在オンラインでプレビュー公開中。美食と寄港地滞在重視として世界有数のラグジュアリークルーズラインであるオーシャニアクルーズが、2 つの世界一周クルーズを同時に発表するのは今回が初めてとなります。

オーシャニアクルーズのチーフラグジュアリーオフィサー ジェイソン・モンタギューは、「究極の探検船 オーシャニア オーレリアがいよいよ船隊に加わることになり、大変うれしく思います。この船は長期にわたる地球規模のクルーズに最適な設計となっています。今回、2 つの世界一周クルーズに加え、グランドボヤージュも同時に発表できることは、私たちにとっては画期的な出来事であり、いずれ劣らぬ素晴らしい旅程揃いです。好奇心旺盛なお客様にとっては、快適かつ優雅に世界を巡りながら、より長く確保されている地上滞在で人気の名所や新たに開拓されたスポットをじっくりと体験できる、まさに理想的な旅となるはずです」と語っています。



オーシャニア オーレリアは、没入感ある長期クルーズには理想的な船上の我が家となります。船上で毎日をのんびりと過ごしながらか、活気あふれる都市や知られざる隠れた名所、そして歴史と個性に満ちた多様な文化へと、旅は続きます。500 名未満の乗客に対して乗員は 400 名という体制で、船内はくつろぎのアットホームな雰囲気を満たされます。細部まで配慮の行き届いた船内空間では、世界中を巡る旅でありながらもリラックスした気分のうちに乗客同志やクルーとの交流に花が咲きます。

両世界一周クルーズの数ある見どころの中でも特に注目すべきは、パペーテ、ボラボラ、シドニー、バリ、東京、シンガポール、ムンバイ、セビリア、ボルドーといった寄港地。できるだけ長い時間を地上で過ごしてじっくりと探索を楽しめるよう、港での一泊滞在が組み込まれています。

さらに、一部のミッドクルーズ・オーバーランドプログラム（地上プログラム）では、海岸線を離れ、ペルーのマチュピチュ、ヨルダンの古代都市ペトラ、インドのタージマハルといった驚異の世界へも足を踏み入れます。世界一周クルーズそれぞれで 100 か所近くのユネスコ世界遺産へのアクセスも可。世界で最も貴重な名所を訪れるめったにない機会となります。

2028 年の世界一周クルーズでは、特別イベントへの参加も。2028 年 1 月、マイアミでは、再生を遂げて初の世界一周航海に就くオーシャニア オーレリアの命名式が、乗客を招待の下、執り行われます。

180 日間の大航海に加え、オーシャニア オーレリアによる 70 日以上グランドボヤージュが 2 日程で催行されます。航路は北海とバルト海を巡るものと、カリブ海から南アメリカを経て太平洋に至るもの。

2028 年 世界一周クルーズ：2028 年 1 月 18 日出航 180 泊、マイアミ発ニューヨーク着 パナマ運河通過後、太平洋を渡ってアジアからさらにその先へ

華やかな命名式の終了後、マイアミを出発し、注目のパナマ運河を通過して太平洋岸に。次いでハワイ諸島を訪れ、2 週間以上をかけてフランス領ポリネシアや南太平洋のエキゾチックな島々や環礁を巡ります。オーストラリア探検はシドニーで港内に一泊してゆっくりと。東南アジアの海岸沿いを進みながら、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイを巡り、日本では 2 週間近くをかけて海岸線をたどります。さらに西へと舵を取りながら、インドやアラビア半島の豊かな文化に触れ、地中海で優雅に 3 週間弱を過ごし、ギリシャやイタリアから仏コートダジュール、スペイン、ポルトガルに至るまで、憧れの各地を巡ります。終盤は大西洋横断を経て、壮大な世界一周の旅はニューヨークで幕を閉じます。



**2029 年世界一周クルーズ: 2029 年 1 月 6 日出航 180 泊、ロサンゼルス発ニューヨーク着
アメリカ大陸の太平洋沿岸を探検。イースター島やペルーのマチュピチュへも**

2029 年の 180 日間世界一周クルーズは、中米からエクアドル、ペルー、チリへと、アメリカ大陸の太平洋沿岸を巡るルート。伝説的なインカの遺跡マチュピチュも訪れます。その後、旅は南太平洋の奥深くへと進み、イースター島に寄港した後、2 週間以上をかけて仏領ポリネシアや南太平洋の陽光が降り注ぐ島々を巡ります。ニュージーランドとオーストラリアでは 3 週間をかけて没入体験を。続いて東南アジアのインドネシア、マレーシア、タイを経て、スリランカ、モルディブ、インド、そしてアラビア半島に。ヨーロッパではギリシャやクロアチアからイタリア、スペイン、フランスに至る地中海の海岸線を巡り、歴史あるブリテン諸島への寄港を経て、大西洋横断でニューヨークまで。

2 本のグランドボヤージュ:

**Grand Nordic & Baltic Discovery: 2028 年 7 月 18 日出航 ニューヨーク発ボストン着、
78 泊**

グリーンランド、アイスランド、人里離れたフェロー諸島を 2 か月以上かけて巡った後、ブリテン諸島やノルウェー、デンマーク、スウェーデン、ラトビア、ドイツを経て西ヨーロッパ沿岸に。最後にスカンジナビアやバルト諸国各地に寄港。

Grand South America Adventure: 2028 年 10 月 27 日出航 - ホリデーシーズンクルーズ

マイアミ発ロサンゼルス着、71 泊

カリブ海に点在する文化的に豊かな島々を巡った後、南米一周に。ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン、チリ、ペルーの沿岸リゾート地や主要な港町を訪れます。南極半島へのクルーズというユニークな体験を楽しめるほか、ペルーでは「インカの失われた都市」マチュピチュへも。

初就航シーズンクルーズ:

オーシャニア オーレリアの初就航シーズンは 2027 年 11 月下旬からスタート。2027 年オーシャニアクラブ再会クルーズを含むヨーロッパクルーズの数々が予定されています。

オーシャニア オーレリア初就航クルーズ:

Mediterranean Debut: 2027 年 11 月 29 日出航 ローマ発トリエステ着、7 泊

ローマから南下してサレルノ経由でシチリア島のメッシーナへ。その後マルタのバレッタへ。クロアチアの風光明媚な海岸線を堪能しながらドゥブロヴニクとザダルに寄港した後、終着点イタリアのトリエステに。



オーシャニアクラブ再会クルーズ:

Venetian Tides: 2027 年 12 月 6 日出航 トリエステ発アテネ着、12 泊

チーフラグジュアリーオフィサー ジェイソン・モンタギューと、オーシャニアクラブ責任者のネリ・アリアスと共に、優雅なイベントや没入型寄港地観光を通じて地中海の魅力を探るスペシャルクルーズ。特別企画のカクテルパーティーや、オーシャニアクルーズ伝統のガラブランチなども。オーシャニアクラブ会員だけでなく、オーシャニアクルーズを初めて利用する顧客も参加できます。スロベニアのコペルやイタリアのブリンディジといった個性豊かな港町をはじめ、アドリア海やエゲ海の各都市を巡り、活気あふれるイスタンブールでは港内で 1 泊します。

- **European Holiday:** 2027 年 12 月 18 日出航 のクリスマスクルーズ アテネ発バルセロナ着、10 泊
- **Iberian New Year:** 2027 年 12 月 28 日出航の年末年始クルーズ バルセロナ発リスボン着、7 泊
- **Festive Crossing:** 2028 年 1 月 4 日出航 リスボン発マイアミ着、14 泊
- **Autumnal Aurelia:** 2028 年 10 月 4 日出航 ボストン発モントリオール着、11 泊
- **Colonial Journey:** 2028 年 10 月 15 日出航 モントリオール発マイアミ着、12 泊

2028 年または 2029 年の世界一周クルーズを利用するゲストには、自動的にオーシャニアクラブのゴールド会員ステータス、リピーター利用にはプラチナ会員以上のステータスが適用されます。乗船したその瞬間から、次回のクルーズを待つことなく、旅の全行程を通じて上質な特典を楽しむことができます。

オーシャニアクルーズが誇るくつろぎの豪華客船と世界中の厳選クルーズに関する詳細は jp.oceaniacruises.com で。

オーシャニアクルーズについて

オーシャニアクルーズは洋上最高の美食と寄港地の魅力を追求する世界屈指のクルーズラインです。ラグジュアリーな小型客船が洋上最高の料理と地球規模の豊富な寄港地体験を提供しています。優れたデザイン性とくつろぎに満ちた客船による考え抜かれた旅行体験で、7 大陸 100 か国以上の 600 を超える主要港から小さな港までを 7 泊から 200 泊余りをかけて巡ります。ソナタクラス船を 5 隻発注済みで、引き渡し予定は、それぞれ 2027 年、2029 年、2032 年、2035 年、2037 年の予定。オーシャニアクルーズはノルウェー・ジャンクルーズライン・ホールディングス(NYSE: NCLH)の完全子会社です。詳細は www.nclhltd.com

画像提供はオーシャニアクルーズ 【発行元】オーシャニアクルーズ PR 株式会社フレア

